

(3) 大鷲(おおわし)鉦山跡一追記

春になったが、山地には根雪が残っている。鉦山探査では、根雪は困りものである。小山から余り遠方でもなく、根雪がなさそうなところとして、10年ぶりに本鉦山を再訪することにした。現地の現状の確認と、GPSのガーミンによる経路ログを得ることを目的とした。

結果、現地は10年前とほぼ変わることはなかった。今でも小さいながらこの鉦山の主要鉦物である輝水鉛鉦をズリ跡で観察することが出来る。

2020年3月

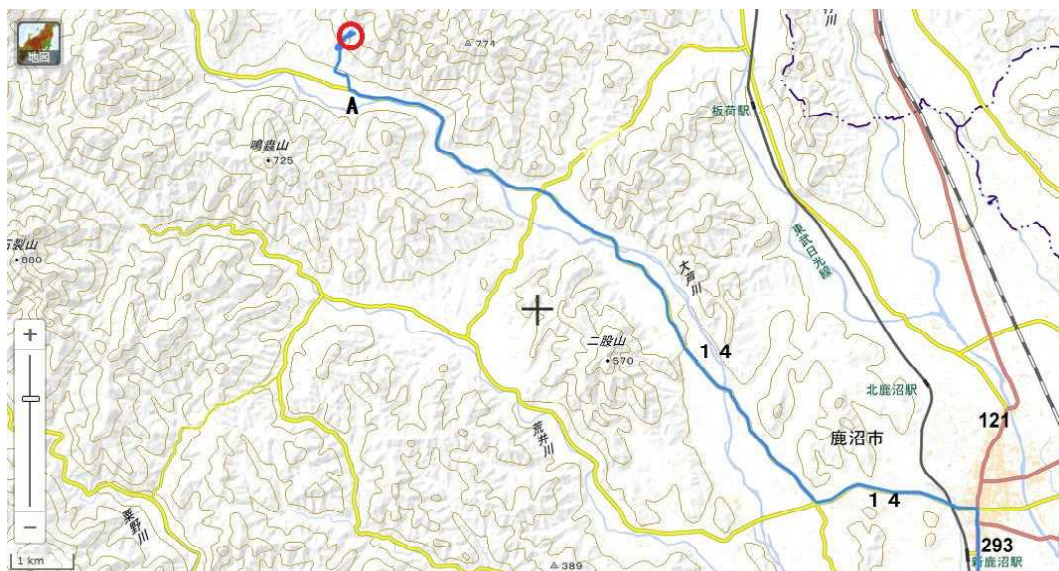


図1 栃木県鹿沼市中央あたりから、現地までの広域図。左上の赤丸が現地。右下の新鹿沼駅あたりからガーミンによる経路ログを水色で示している。293号を北上してきたら、新鹿沼駅の先で左折し、14号に入っていく。途中で、14号は右側に右折し大久保川に沿って北西方向に延びている。A点付近が下大久保地区である。これより先については図2参照。



図2 図1の部分拡大図。14号を進んできたならA点の所で右折し、村道に入っていく。B点の所で右折し、道なりに林道を北方向に進んでいくと大きな砂防ダムがある。C点である。著者はC点まで車で進んだが、車はB点付近の広い道端に駐車し、ここから歩くことを勧める。林道は幅が狭く、急坂であり、ダートでもある。D点付近に広いプラトーがあり、一帯ズリが広範囲にわたっている。E点には何段にも連なった砂防ダムがある。沢から見ると垂直方向に数カ所が金網で囲われた坑口跡がある。周りを良く探すとズリ跡もある。

鉾山跡写真



写真1 14号を進んできた、図2のA点である。前方の横断ゼブラの所で右折し、狭い村道に入っていく。



写真2 図2のB点付近である。現地へは10m先で右折し、細い道に入っていくことになる。この付近は村道にしては道幅が広い。車はこの当たりの路肩が広いところに駐車させた方がよい。ここから歩こう。



写真3 C点近傍である。前方に大きな砂防ダムがある。その擁壁が見えている。写真の中央付近の左側に支林道がある。それを登って、砂防ダムを向かって左側から迂回する。



写真4 歩いている林道の一様である。黒色の導水パイプが林道に横たわっている。現地の上流まで延びているので、これを案内にするのも良い。



写真5 坑口跡の1つ。金網で囲われている。進入禁止である。10年前と比較すると、土石流で洗われた形跡が残っている。

写真6 写真5の坑口に向かって、上の方を見ると何か所かに金網が建てられている。垂直に延びている鉱脈を目指したのであろう。



写真7 図2のE点で、表面観察で見つけた5mm四方程度の輝水鉛鉱。中央で銀色の菱形をしている。

進んできた林道の右側にあるプラトーのD点でも、結構見かけた。なを、D点付近の写真撮影を忘れてしまったD点は広いプラトーである、一目瞭然。プラトーの斜面にはズリが見えている。

(3) 大鷲(おおわし)鉱山跡

参考文献(1)、ネットで得られた「栃木県大鷲鉱山の輝水鉛鉱」(2)を手がかりに出かけた。鹿沼市大久保にある。参考文献(1)の出版年は1972年であるから、実施年はその先であろう。37年以上、いや40年の経過しているかもしれない。鉱山跡を、国土地理院の2万5千分の1の地図「文挾」と、文献の紹介地図、及び道案内文を照らし合わせた。地図「文挾」で、下大久保地区の北側山中の砂防ダムの上辺りと判断した。確定した位置が赤印で示している。

国土地理院の地図中の林道は、砂防ダムの左下まで延びている。この所に車は十分に駐車できる。砂防ダムに向かって左側に巻き道がある。これを伝って沢の左側の道を10分ぐらい進んでいくと、進行方向右側の一応平らな杉林の中に、落ち葉と共にズリらしいものが見える。参考文献(1)中の案内図の「ズリ山と抗口」に該当する場所と思う。ここのズリで今でも小さな鉱物が拾える。が、抗口は見あたらない。埋もれてしまったようである。

更に先に林道を進んでいくと、幾つかの上流の砂防ダムの先で、砂防ダムの上に出ると、沢の左手に金網で囲われた抗口が簡単に見れる。よく見ると、その上に更に2つの金網がある。全て旧抗口である。この箇所が参考文献(1)の案内図の「滝に近接した抗口」と思われる。が、抗口は3つであり、滝らしい物は見えない。砂防ダムで消えたのかもしれない。この辺りの沢で、石英塊を探す。石英塊の数は少ないが、あれば割ってみること。石英岩中に輝水鉛鉱は板状に成長している。今でも、割面に輝水鉛鉱は必ず見つけられそうである。小さいながら、極小の輝水鉛鉱は必ずついている。体験より。が、大きさが10mmの物を収穫できた。正に偶然である。

ダムの所から赤印の所まで、20分程度か。水量の少ない沢なので、沢を探索しながら登るのも良い。石英の転石が転がっているの。



赤印が大鷲鉱山跡

地図 国土地理院 2万5千分の1 地形図「文挾」

探査日 2009年2月、その他の日

参考文献

(1) 「鉱物採集の旅 関東地方とその周辺」、桜井欽一、松原聡、築地書館、1972年。

(2) <http://www002.upp.so-net.ne.jp/mineralhunters/oowashi.html>

鉾山跡写真



砂防ダムの下まで4輪駆動車ならいける



沢床脇の坑口跡。直ぐ上にも坑口跡が見える。



沢には石英のズリや転石が少しはある。

採集鉱物写真

品名	輝水鉛鉱 (Molybdenite モリブデナイト)
化学組成	MoS_2
色	銀白色
光沢	銀
条痕色	
比重	4.8
硬度	1.5 結構柔らかい
結晶系	六方晶系
劈開	一方向に完全
共生鉱物	石英、鉄マンガン重石、黄鉄鉱など
解説	



採集現場での撮影 割った茶褐色の石英母岩中に銀色に光る小さな輝水鉛鉱



採集現場での撮影 割った茶褐色の石英母岩中に銀色に光る1 cm大の輝水鉛鉱



母岩の石英の左右長は5 cm。銀色の丸いものが輝水鉛鉱。厚み3 mm。